

令和元年度第1回全国健康保険協会秋田支部評議会議事録

開催日時：令和元年5月24日（金）10：30～12：00

開催場所：ルポールみずほ 3階 ゆりの間

出席者：松渕評議員（議長）、佐々木（宏）評議員、佐野評議員、小林評議員、

佐々木（卓）評議員、館岡評議員、栗盛評議員、近藤評議員（代表別・50音順）

中田支部長、桜田部長、三浦部長、佐藤グループ長、二田グループ長、安田グループ長
間杉グループ長、沼倉主任、高橋主任（記）、澤口スタッフ

議事録署名人：佐野評議員（事業主代表）、近藤評議員（学識経験者）（代表別・50音順）

■ 議事事項

1. 平成30年度秋田支部事業報告について

■ 質疑応答、意見交換等

【被保険者代表】

事務局の説明で秋田支部の被扶養者が減少している主な要因は、高齢化による自然減とあったが、被扶養者資格再確認や社会保険の適用拡大による影響は大きくないのか。

【事務局】

被扶養者資格再確認や適用拡大による要因も減少理由の一つであるが、一番の要因は年齢構成による後期高齢者医療制度への移行が大きいと思われる。

【学識経験者】

被保険者数が増加しているのは、健康保険組合が解散したこと等が影響しているのか。

【事務局】

被保険者が増加している要因としては、健康保険組合の解散のほか、日本年金機構が進めている社会保険の適用事業所拡大が影響していると思われる。また、詳しく分析していないが、人手不足等で被扶養者が働きに出ているということも要因の1つと考えられる。

【学識経験者】

サービススタンダードの達成状況で平均5.06日とあったが、傷病手当金や出産手当金等の代表的な健康保険給付の数値はどうなっているのか。

【事務局】

サービススタンダードの対象申請書については、種類によって大きな隔たりはないため、傷病手当金も出産手当金も平均5.06日に近い数値になっている。

【学識経験者】

重症化予防（未治療者に対する受診勧奨）について、平成29年度に比べて平成30年度は対象者が減少しているが、理由等は把握しているか。また、健診結果が悪いことに関して、ある程度プレッシャーをかける内容になっているのか。

【事務局】

対象者が減少した詳しい理由は把握していない。重症化予防の取組みや健康意識の高まり等により減少した

という見方もできるが、いずれにせよ手放しで喜べるような状況ではない。受診勧奨の内容については、大きなプレッシャーを与えても逆効果になる場合があるため、ほどよいトーンで受診勧奨している。また、特定保健指導で事業所に訪問する際に、重症化予防の対象者に直接お会いして受診勧奨するという取組みも進めている。

【事業主代表】

血圧と心疾患との関連性等について、エビデンスに基づいたデータを使用している学会発表等があると思うので、そのようなデータを使用して受診勧奨を行ってみてはいかがか。

【事務局】

放置するとどれだけ危険であるのかを説明する際等に、そのようなデータを示しながら受診勧奨を進めてまいりたい。

【被保険者代表】

健康保険委員委嘱者数の推移の中で、平成 30 年 10 月に解嘱者数が増加しているのはなぜか。

【事務局】

平成 30 年 10 月に全喪事業所の整理を行ったため、解嘱者数が増加している。

【学識経験者】

健康保険委員について、被保険者カバー率だけでなく、事業所カバー率も示してほしい。

【事務局】

今後は、被保険者カバー率と一緒に事業所カバー率もお示ししてまいりたい。

【事業主代表】

平成 30 年度の目標が平成 29 年度実績よりも少ない数値が掲げられているが、いつの時点で目標設定しているのか。

【事務局】

年度末の実績が出る前に目標設定作業を開始しているため、目標が前年度実績よりも下回ってしまうことがある。

【学識経験者】

急激に目標に数値を近づけることは難しく、少しずつだが着実に事業を進めることが大切である。冒頭の支部長挨拶にあったように、工夫をしながら着実に事業を進めていることがよく理解できた。

■ 議事事項

2. 秋田支部の医療費等データ分析について

■ 質疑応答、意見交換等

【学識経験者】

DPC についてもう少し詳しく説明していただきたい。

【事務局】

当該資料中に用いられている DPC とは、約 2000 種類からなる診断分類（病名）ごとに標準的に必要とさ

れる検査や注射・投薬等をパターン化してまとめたものを、1日当たりの包括点数として算定していく医療費の計算方式を指しており、従来の診療行為ごとの点数をもとに算定する出来高払い方式よりも、医療費が抑えられるといわれている。

【事業主代表】

投薬も含めて1日当たりの点数が決められているため、DPCの方がジェネリック医薬品の使用割合も高くなるようだ。

【事業主代表】

ジェネリック医薬品は単価が安いので、薬局側では消極的な面もあるように感じる。

【事業主代表】

ジェネリック医薬品の使用割合が高くなれば売上単価が下がり薬局の売上自体は減ることになるが、公的医療保険を存続させることが何よりも保険薬局にとって大切なことだと考える。また、後発医薬品調剤体制加算等のインセンティブも用意されており、ジェネリック医薬品使用促進のための施策も実施されている。

【学識経験者】

ジェネリック医薬品の使用割合に地域差があり、能代山本地域等が低いということだが、なにか理由はあるのか。

【事務局】

能代山本地域については、他の地域よりも診療所が多いと聞いている。診療所は病院と比べて、医師個人の考えが反映されやすい傾向があり、そのことが影響しているのではないかと考えている。反面、患者側にもジェネリック医薬品は効き目が悪いという意識が根強く残っていて、医師や薬剤師が勧めても断られるケースもあると聞いているため、そのような状況を1つひとつ確認しながら進めてまいりたい。

【事業主代表】

ジェネリック医薬品に関して、メンタル系の薬等は慎重にならなくてはならないが、「すでに7割以上が使用しているメジャーな薬であること」や「公的医療保険制度を守るために必要であること」を徹底的に訴えていくことが大事だと感じる。

【被保険者代表】

1人当たり医療費が全国値を上回っている状況の中で、加入者1人ひとりに意識を持ってもらうためには、どのような取組みが必要と考えているのか。

【事務局】

協会けんぽは、健保組合と比べると加入事業所数が多く、事業所との距離が遠いため、その距離をどう縮めていくのが従前からの課題になっている。その取組みの一つとして、健康保険委員を各事業所においていただき、健康保険委員を通じて、加入者へ訴えていくことが必要と考えている。そのうえで、健康経営宣言も行っていただき、事業所としての健康度を高めるための情報提供やサポートを行ってまいりたい。そのほか、TVやラジオ・新聞・web広告・SNS等の媒体の活用も検討しながら、皆様の理解を深めていただけるよう必要な取組みを行ってまいりたい。

【事業主代表】

健康リスクに関して、例えば、雪の多く降る地域は健康リスクが高いなど、他都道府県の状況も含めて地域的な特徴があるのか。地域的な特徴がわかれば、“冬場は体育館の周遊コースでジョギングを推奨する”などの対策が打てるのではないかと。

【事務局】

北東北3県は血圧リスクが高いなど地域的な特徴を示すようなデータはあるが、様々な要因があり、多面的に分析しないと誤解を与えてしまう結果になりかねないため、それらを踏まえながら今後お示ししてまいります。

【学識経験者】

協会けんぽでも医療費通知等を通して加入者1人ひとりに対するアプローチを実施しているが、全国健康保険組合連合会では、スポーツクラブ ルネサンスと提携して全国どこの健康保険組合でも様々な利便を受けられるようになっている。

【学識経験者】

資料の中で、7・8ページには「新生物」、13ページには「悪性新生物」と表示しているが、分けている意図はあるのか。

【事務局】

「新生物」のうち良性新生物及びその他の新生物を除いたものを「悪性新生物」と表示している。

■ 議事事項

3. 第4回北海道・東北ブロック評議会の報告について

■ 参加した評議員からの感想

【学識経験者】

北海道支部の“健康で保険料が気にならない方は見ないでください”というインパクトのあるweb広告や、全国的に保健師が足りないこと、面積が広い北海道と岩手からは広域で物理的なハンデを訴えていたことが印象に残った。

【事業主代表】

どの支部も抱えている問題は似ており、保険料率を下げるためにインセンティブ等の取組みをしている。そのため、開催地も遠く参加することは大変であるが、議長だけでなく各評議員が順番に参加することで、各都道府県の取組みを知ってフィードバックすることができるのではないかと感じた。

■ 次回評議会の開催 令和元年7月開催予定